



所在地 大磯町大磯 1007 番

建物概要

- ・構造 木造3階、地下1階
- ・屋根 スレート葺
- ・外壁 南京下見板張

建築面積 142.29 m²

建築年 大正元（1912）年

設計 小笹三郎

管理者 大磯町（大磯迎賓館インター
ナショナル青和株式会社）

交通 JR東海道線大磯駅徒歩1分

旧木下家別邸（大磯駅前洋館）は、大磯駅を出ると、すぐに目につく地元で三角屋敷と呼ばれた洋館です。

大正元年（1912）に竣工した、現存する最古のツーバイフォー工法住宅として、平成24年（2012）に国の登録有形文化財に登録されました。設計者小笹三郎は、アメリカ帰りの建築家で、現在アメリカ合衆国国定歴史建造物に指定されているワシントン州シアトルの「パナマホテル」の設計者として知られています。

建物の特徴として、屋根は切妻造スレート葺、左右の屋根上にドーマー窓を乗せ、外壁は国産赤松を使用した南京下見板張。各部屋にはベイウィンドウを設けた、全体にシンメトリックなデザインです。

現在は、パーティや結婚式など多くの方が集う場所として、また、大磯など湘南地域の旬を楽しめるイタリアンレストランとして活用されており、明治150年記念メニューもご用意しております。

（2018年9月現在）